Panasonic® 工事説明書

テレビドアホン

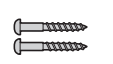
品番 VL-SV25X（ブイエル エスブイ エックス） 電源直結式
VL-SV20X（ブイエル エスブイ エックス） 電源直結式

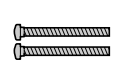
カメラ玄関子機
VL-V566

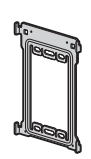
モニター親機
VL-MV25X（画面：3.5型）
VL-MV20X（画面：2.6型）

本書の説明イラストは、VL-SV25Xを使用していますが、工事方法は共通です。

工事をされる方へ

- ■ 本書をよくお読みのうえ、正しく安全に設置してください。**特に「安全上のご注意」は、設置前に必ずお読みください。**正しく設置されなかった場合などの製品の故障および事故について当社は、その責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- ■ 電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
- ■ 既設の配線を使用する場合は、「工事について」を必ずお読みください。
- ■ 別売の機器を増設する場合は、「配線系統図」（☞ 裏面）を確認してください。
- ■ 工事終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。
- ■ 本書では、カメラ玄関子機を「ドアホン」、モニター親機を「ドアホン親機」と表記しています。

付属品を確認する

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

ドアホン用

- □ 壁掛け用木ねじ（2個）（3.8 mm × 20 mm）
- □ 壁掛け用小ねじ（2個）（4 mm × 25 mm）
- ● ドアホンの包装袋に添付しています。

ドアホン親機用

- □ 壁掛け金具（1個）
- □ 壁掛け用木ねじ（2個）（4 mm × 16 mm）
- □ 壁掛け用小ねじ（2個）（4 mm × 25 mm）
- ● ドアホン親機の背面にあります。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

してはいけない内容です。

実行しなければならない内容です。

⚠警告

■分解・修理・改造しない

火災・感電の原因になります。
分解禁止

●修理は販売店へご相談ください。

■AC100 Vの電源直結工事は資格を持つ者が行う

感電の原因になります。

●電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店へご相談ください。

■雷のときは配線工事をしない

火災・感電の原因になります。
禁止

■電源（AC100 V）を入れたまま配線工事をしない

感電の原因になります。
禁止

パナソニック システムネットワークス株式会社
〒 153-8687 東京都目黒区下目黒二丁目3番8号

PNQW2120ZA SV1109KS0

安全上のご注意 必ずお守りください

⚠警告

■AC100 V以外での使用はしない

発熱による火災の原因になります。
禁止

■チャイム線など既設の配線を利用する場合は、AC100 Vが通電されていないことを確認する

そのまま使用すると、感電の原因になります。

●販売店へご相談ください。

■指定以外の端子に電源（AC100 V）を接続しない

ショートして火災・感電の原因になります。
禁止

■ドアホン親機は水や薬品のかかる場所、湿気やほこりの多いところに設置しない

火災・感電の原因になります。
禁止

⚠注意

■屋外配線する場合は、雷サージ保護のため、避雷器を取り付けるか、保護管を使用して埋設配線する

感電の原因になることがあります。

■土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない

絶縁劣化により、感電の原因になることがあります。
禁止

■土中埋設配線する場合は、保護管を使用する

使用しないと、感電の原因になることがあります。

■落下しないようにしっかりと取り付ける

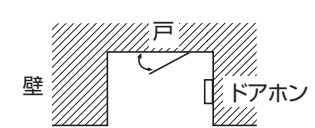
落下により、破損やけがの原因になることがあります。

●石こうボード、ALC（軽量気泡コンクリート）、コンクリートブロック、厚さ18 mm以下のベニヤ板など、強度の弱い壁は避け、指定の方法で取り付けてください。

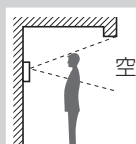
設置上のお願い

設置場所について

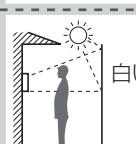
こんなところには設置しない（故障や動作障害などの原因になります）

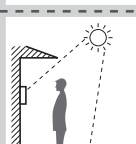
- ● 振動、衝撃のあるところ
- ● 硫化水素、アンモニア、硫黄、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ
- ● 反響の多いところ
- ● テレビ、電子レンジ、パソコン、エアコンなどの電気製品の近く

ドアホンの設置について

- ● 逆光になる場所への設置は避けてください。（来訪者の顔が暗く映り、識別しにくくなります）
- ● 下図のように反響の多い場所では、「ピー」という音（ハウリング）が生じることがあります。

- ● ドアホンの防水性は下記のとおりです。

IPX3※
（旧JIS C 0920 保護等級3「防雨構造」）

※ 鉛直から両側に60度までの角度で噴霧した水によっても有害な影響を及ぼさないレベル

- ● 背面に水などが直接かからないようにしてください。

〈逆光になる場所〉

背景に空の占める割合の大きい玄関

正面に、直射日光が反射する白壁がある玄関

直射日光があたるような、明るい玄関

ドアホン親機の設置について

- ● 強電界地域や電波を発する無線局周辺では、映像や音声にノイズなどが入ることがあります。
- ● ドアホンから約5 m以上離して設置してください。
- ● 本体の上下左右に20 cm以上の空間をとってください。また、壁を深くくぼませたスペースへの設置はできるだけ避けてください。（誤動作や通話の途切れ防止）
- ● 本体を埋め込まないでください。

工事について

- ● 電源について：
  3 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
  ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
- ● 既存または新設のドアホン配線などを接続する場合は、接続工事の前に、必ず大地アースと配線との絶縁抵抗、配線2線間の絶縁抵抗、および配線の線路抵抗値（直流ループ抵抗）を測定のうえ、下記の抵抗値と照合し、異常のないことを確認してから接続工事を行う。

絶縁抵抗値	DC500 Vにて1 MΩ以上
線路抵抗値	直流抵抗計にてループ抵抗10 Ω以内（配線距離100 m以内で）

- ● 本機は電気設備技術基準による施工を行う。
  - ・使用する埋込みボックスに、堅牢な隔壁（電源線とその他の信号配線材の間）を設ける。
  - ・金属ボックスを使用する場合はD種接地を行う。
  - ・配線材はAC600 V以上の絶縁電線を使用する。

設置上のお願い（つづき）

工事について（つづき）

- ノイズ障害が考えられる場合は、金属配管の中に接続線を通して工事を行う。
  （金属管は必ず大地アースをすること）
- AC100 V以上の電力線（電灯線）とは1 m以上離して配線工事するか、別々の金属管による配管工事を行う。
- ドアホン親機の信号線接続端子は、速結端子になっているため以下の方法での結線を行う。
  （接続できる線種などについては ☞「線種と配線距離について」）

<ドアホン親機（背面）>

配線材を挿入する場合
- 配線材の被ふくを約9 mmむく。
- ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を確実に端子に挿入する。

配線材を抜く場合
- ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を引き抜く。

- 誤配線、ショートなどがないことを確認後、ドアホン親機の電源を入れる。

線種と配線距離について

（下表の記載以外で使用すると、動作不良の原因になります）

配線区間	線　種	配線距離
ドアホン親機 ～ ドアホン	インターホン用平行2線式ケーブル 単芯線（mm）：φ0.65～φ0.8	100 m以内

- 別売の機器を接続するとき

配線区間	線　種	配線距離（総延長）
ドアホン親機 ～ 増設モニター ～ ドアホン	インターホン用平行2線式ケーブル 単芯線（mm）：φ0.65～φ0.8	100 m以内
ドアホン親機 ～ 住宅用火災警報器	ドアホン親機接続端子の許容線種 単芯線（mm）：φ0.65～φ0.8	50 m以内
住宅用火災警報器 ～ 増設モニター（～ ドアホン親機）※	インターホン用平行2線式ケーブル 単芯線（mm）：φ0.65～φ0.8	100 m以内
ドアホン親機 ～ 呼出音増設用スピーカー		75 m以内

※ 増設モニターに接続した火災警報器に、ドアホン親機も連動させる場合は、増設モニターとドアホン親機間の配線が必要です。（☞ 裏面「配線系統図」の「増設モニター（VL-V630K）を設置する場合」）

ドアホンの取り付けについて

（取り付ける場所や位置に応じて下記の機器をご利用ください）

- エントランスポール（機能門柱）：パナソニック電工（株）製　（2010年3月現在）

品　名	品　番
アーキッシュポール	CTP151S、CTP152S、CTP153S、CTP154S
ECSSユーロポール	CTP1415B/RE/DE/HE/YE/ME/GE
アルモナ	CTP181BML/SML/MEML、CTP181BMD/SMD/MEMD
アーキフレーム	XCTP171RCS/LCS、XCTP172CS、XCTP174CS

- サインポスト（郵便ポスト）：パナソニック電工（株）製　（2010年3月現在）

形　式	品　番
SP型	CTB470、CTB471、CTB470B、CTB471B
SS型	CTB570、CTB571、CTB570B、CTB571B
NM型	CTB3731、CTB3731B
GS型	CTB560B/H、CTB561B/H、CTB562B/H、CTB5622B/H、CTB5623B/H

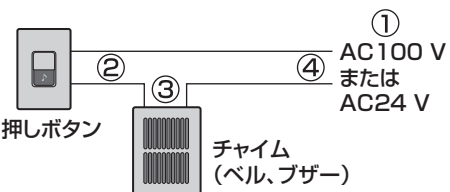
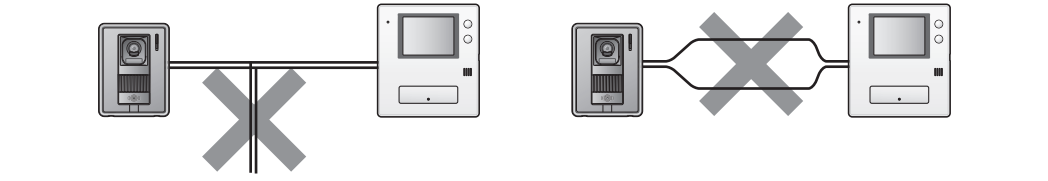
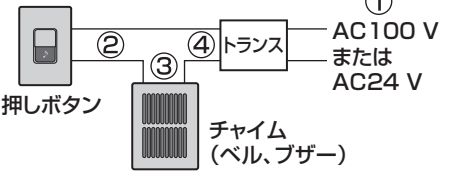
- カメラ角度調節台：当社製　（2010年3月現在）

品　番	備　考	
VL-1301A	縦用	補正角度：上下方向 6°
VL-1302A	横用	補正角度：左右方向 30°

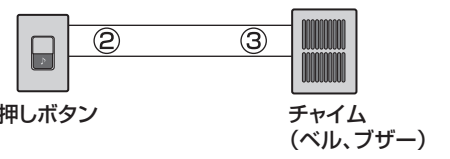
ドアホンの取付角度を変えることができます。詳しくは、カメラ角度調節台の説明書をお読みください。

<サインポストにドアホンを取り付けるとき>

➡ サインポストに取り付けられている呼出ボタン（ユニット部）を外し、ドアホン本体（露出ケースを除く部分）を取り付けてください。
➡ サインポストの蛍光灯回路（AC100 V）とは別のケーブルを使用し、新しく配線してください。
➡ カメラ角度調節台（別売品）は、使用できません。

既設（チャイム/ベル/ブザー/テレビドアホン/音声ドアホン）の配線を使用して本機を取り付けるとき

- 既設の配線に電源（AC100 V、24 Vなど）が接続されている可能性があるため、必ず電気工事士の資格を持つ方が工事をしてください。（誤って接続すると故障の原因になります）
- 工事の際は、まず既設配線の電源を切り、配線材の線種と配線距離を確認してから、右上の「既設の配線例と取り付け手順」に従って配線してください。
  - 本書の「線種と配線距離について」の内容に合わない場合、正常に動作しないことがあります。
    - 線種がφ1.6 mmのときは、配線材を取り替える
    - 線種が「より線」のときは、棒型圧着端子（市販品）を取り付けてから接続する
      （☞ 裏面「2ドアホン親機を取り付ける」の手順3）
  - ドアホン親機とドアホン間に不要な配線材があるときは、取り除くか新たに配線してください。
    また、下記のように配線材を分岐したり、極端にばらしたりしないでください。 正常に動作しないことがあります。

工事について（つづき）

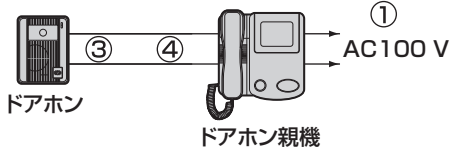
■ 既設の配線例と取り付け手順

乾電池の交換が不要なチャイムなど

（電源線がトランスに接続されている場合）

① 電源線（AC100 Vまたは24 V）を外す※1
- トランスがある場合はトランスの電源線を外す

② 押しボタンの配線（2芯）を外し、ドアホンに接続する
③ チャイムの配線（2芯）を外し、両先端をつなぐ（ショートする）
④ 押しボタンとチャイムからの配線（2芯）をドアホン親機の速結端子に接続する
- 押しボタンとチャイムからの配線（2芯）がトランスに接続されている場合はトランスから外し、ドアホン親機に接続する

⑤ ドアホン親機の電源（AC100 V）を入れる

※1 外した電源線を、ドアホン親機の速結端子に接続しないでください。

乾電池式のチャイム

① チャイムの乾電池を取り外す
② 押しボタンの配線（2芯）を外し、ドアホンに接続する
③ チャイムの配線（2芯）を外し、ドアホン親機の速結端子に接続する
④ ドアホン親機の電源（AC100 V）を入れる

テレビドアホンや音声ドアホン

① 既設のドアホン親機の電源線（AC100 V）を外す
② 既設のドアホン親機とドアホンを取り外す※2
③ 既設のドアホンの配線（2芯）を新しいドアホンに接続する
④ 既設のドアホン親機の配線（2芯）を新しいドアホン親機の速結端子に接続する
⑤ ドアホン親機の電源（AC100 V）を入れる

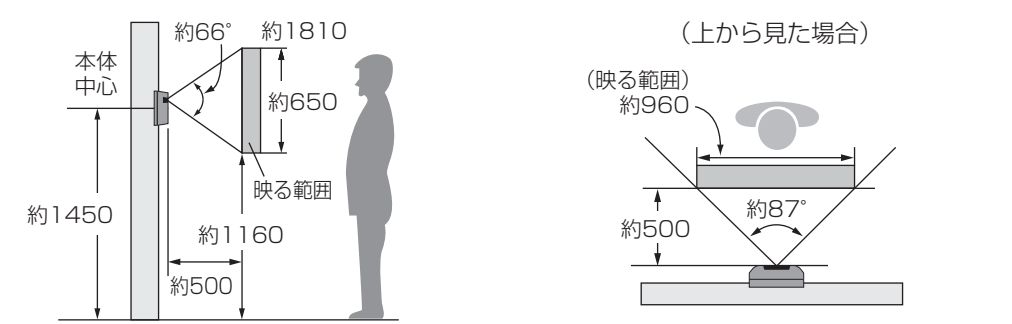
※2 既設のドアホン親機を取り外す前に、新しいドアホンを接続しないでください。

ドアホン、ドアホン親機、壁掛け金具の取り付け位置について

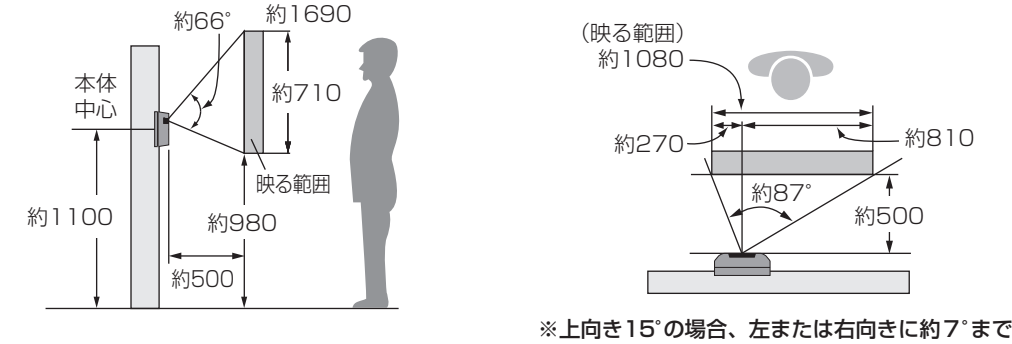
ドアホンの取り付け位置とカメラに映る範囲

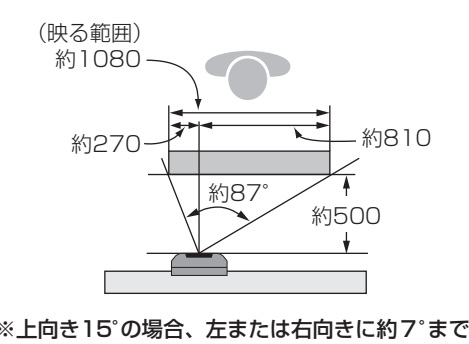
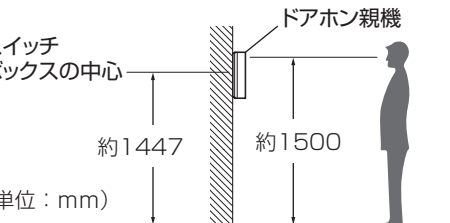
下記はカメラから約500 mm離れた場合の数値です。（単位：mm）

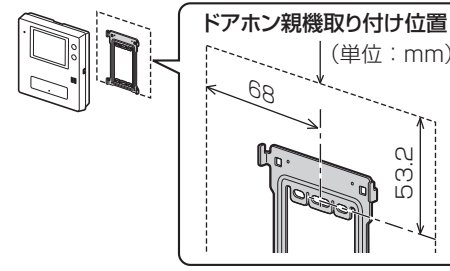
■カメラ角度 0°（正面）〈お買い上げ時〉

標準位置（本体中心までの高さが約1450 mm）に設置する場合

下図のように、標準位置より低い位置や、左または右に離れた位置に設置する場合には、カメラ角度調節レバーで、映る範囲を調節できます。（☞ 裏面「1ドアホンを取り付ける」の手順3）

■カメラ角度15°（上向き）

本体中心までの高さが約1100 mmに設置する場合

■カメラ角度15°（左右）※

正面より左または右に離れた位置に設置する場合（例：左向き15°）

※上向き15°の場合、左または右向きに約7°まで

ドアホン親機の取り付け位置（高さ）

よくご利用になる方の目の高さにモニター画面の中心がくるよう取り付けてください。

（例）床から約1500 mmの高さに画面の中心がくるように取り付けるとき

壁掛け金具の取り付け位置

ドアホン親機の取り付け位置が指定されている場合、壁掛け金具は下図の位置に取り付けてください。

配線系統図

配線系統図および「線種と配線距離について」(☞ 表面)に従って正しく配線してください。

ドアホン(背面)

(無極性)

別売の機器(品番など詳しくは ☞ 取扱説明書11ページ)

ドアホン親機(背面)

玄関子機 1 2

火災警報器 3 4

増設スピーカー 5 6

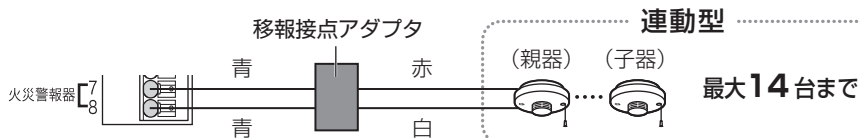
(無極性) 火災警報器〈連動型/単独型(移報接点付き)〉(接続の詳細は ☞ 下記)

(無極性) 呼出音増設用スピーカー

■ ドアホン親機と火災警報器を接続するとき(火災警報器のタイプによって接続方法が異なります)

連動型の場合：移報接点アダプタ(SH2890)が必要です

玄関子機 1 2 / 火災警報器 3 4 — 移報接点アダプタ — 青 / 青 — 赤 / 白

連動型 (親器)……(子器) 最大14台まで

● ドアホン親機に直接、連動型の火災警報器を接続しないでください。(故障の原因)
● 移報接点アダプタとの配線時は、線の色を間違えないでください。(故障の原因)

単独型(移報接点付き)の場合

玄関子機 1 2 / 火災警報器 3 4

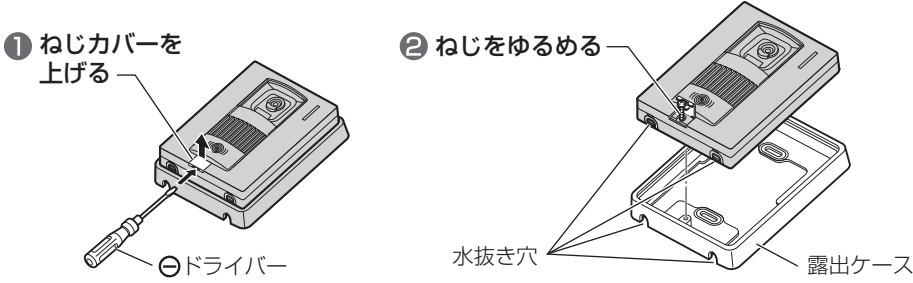
単独型 並列接続で 最大15台まで

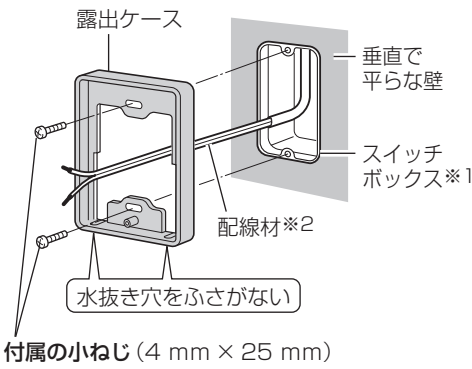
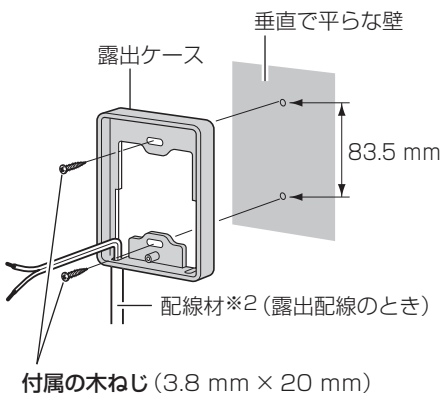
● 単独型を複数台接続する場合も、火災警報器端子への入線は、1端子あたり1本にしてください。

増設モニター(VL-V630K)を設置する場合

下記の配線系統図とあわせて、増設モニター(VL-V630K)の取扱説明書もよくお読みください。

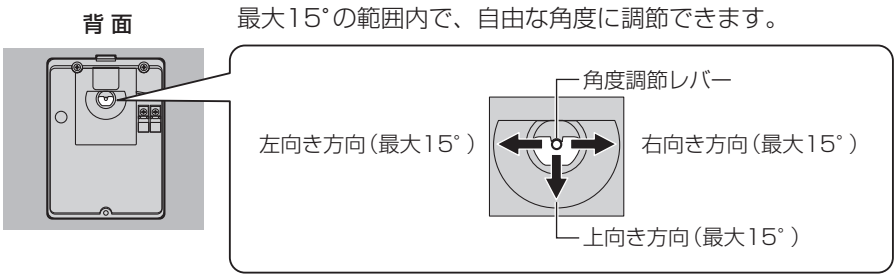
1 ドアホンを取り付ける

1 露出ケースを外す

2 露出ケースを壁面に確実に取り付ける

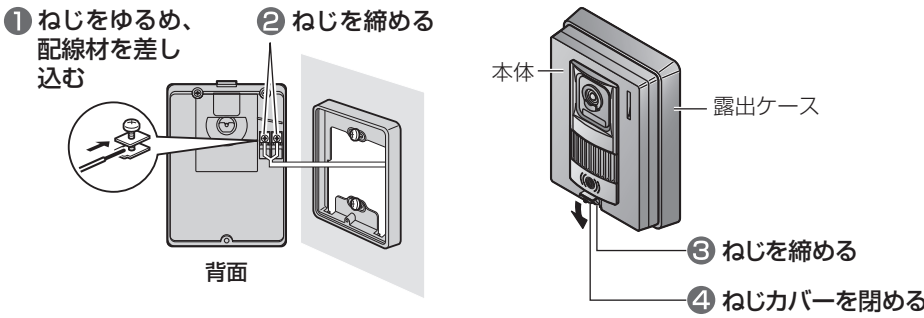
■ スイッチボックスの場合　■ 壁の場合

※1　JIS 1 個用スイッチボックス（カバー付き）
- カバーなしには取り付けられません。
- 底面に穴（スリット）がない場合は、水抜きのための穴を開けてください。

※2　既設の配線を使用する場合、電源線（AC100 Vなど）の可能性があります。
そのときは、電源を取り除いてください。（☞ 表面「既設の配線例と取り付け手順」）

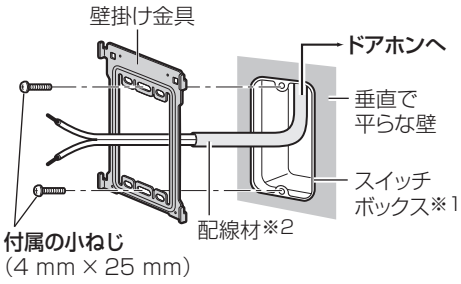
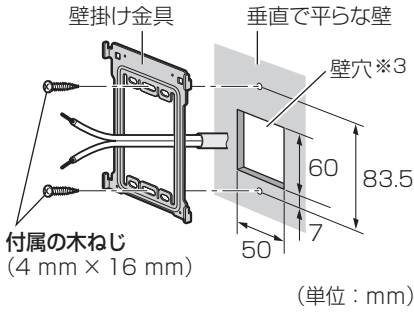
3 カメラレンズの角度を調節する

最大15°の範囲内で、自由な角度に調節できます。

- 「左向き」、「左上向き」にも調節できます。
- 「左上向き」または「右上向き」に設定すると、画像がひずむことがあります。

4 配線材を接続し、本体を取り付け、固定する

- 取り付け後は、本体表面の保護フィルムを必ず取り外してください。

2 ドアホン親機を取り付ける

1 付属の壁掛け金具を壁面に確実に取り付ける

■ スイッチボックスの場合

■ 壁の場合

※1 JIS 1 個用スイッチボックス(カバー付き)
• カバーなしには取り付けられません。
• 電源線とその他の信号配線材などが混在する場合は、絶縁セパレーターを取り付けてください。

※2 既設の配線を使用する場合、電源線(AC100 Vなど)の可能性があります。
そのときは、電源を取り除いてください。(☞ 表面「既設の配線例と取り付け手順」)

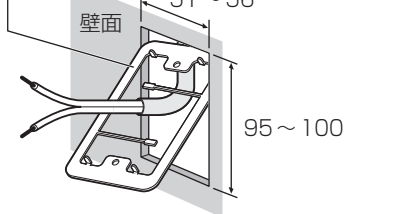
※3 スイッチボックスを使用せずに壁の中から配線する場合に、壁穴を開けてください。

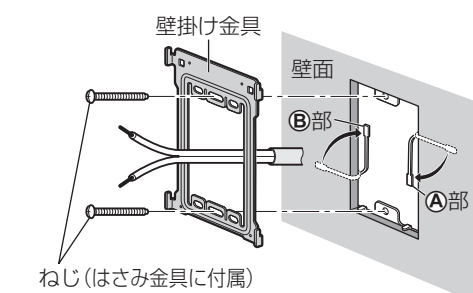
■ パネル壁(石こうボード)の場合

壁に下図のように穴を開け、脱落を防止するため、右記のはさみ金具を使って取り付けてください。

はさみ金具：パナソニック電工(株)製

品 番	対 象 壁
WN3996020	9 mm～30 mm厚の石こうボード

❶ はさみ金具を壁面の裏側に入れる

❷ Ⓐ部・Ⓑ部を図のように折り曲げ、はさみ金具を壁面に仮固定する

❸ 壁掛け金具とはさみ金具を、ねじで仮止めする

❹ Ⓐ部・Ⓑ部を壁端面まで戻し、ねじを締めて固定する

● Ⓐ部・Ⓑ部を、壁掛け金具と壁面に挟み込まないようにしてください。

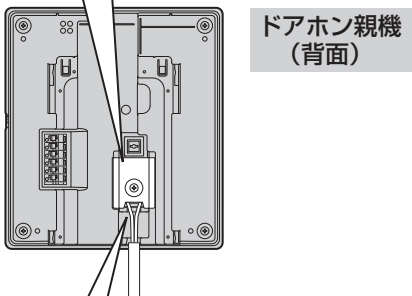
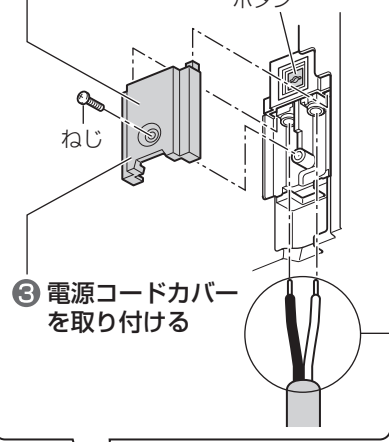
2 電源線を接続する 電気工事士の資格が必要

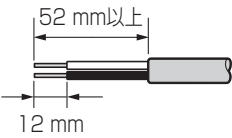
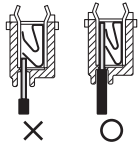
❶ 電源コードカバーを取り外す

ボタン

ねじ

❸ 電源コードカバーを取り付ける

ドアホン親機(背面)

❷ AC100 V電源線を下記のように接続する

1. 被ふくを12 mmむく
(線種：φ1.6～φ2.0単芯線)

2. ドライバーの先などでボタンを押しながら、奥まで確実に差し込む

〈AC100 V電源線接続端子断面図〉

奥まで確実に差し込む

差し込みが不完全な場合、発熱の原因になることがあります。

《電源線の処理について》

取り付け時に壁掛け金具で挟み込まないように注意してください。

電源コードカバーに沿って曲げる

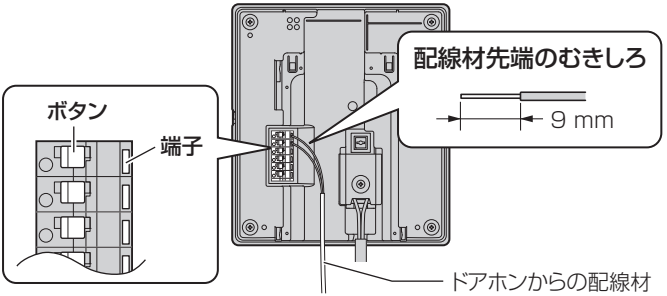
下側で曲げない※
(挟み込みの原因)

※ このような状態で無理に壁掛け金具に取り付けないでください。
線処理が困難なときは、電源コードカバーを取り外してください。
(外した状態でも問題なく使えます)

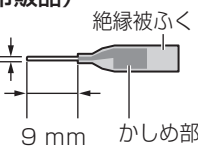
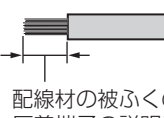
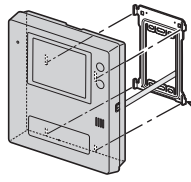
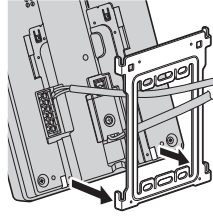
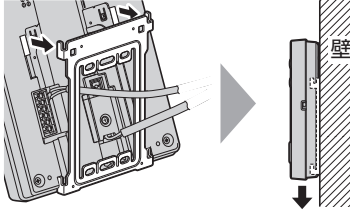
3 配線材を接続する

● 電源線(AC100 Vなど)は、絶対に接続しないでください。故障の原因になります。
(☞ 表面「既設の配線例と取り付け手順」)

● 配線系統図に従って正しく接続してください。

● 配線材は、各端子の横にあるボタンをドライバーの先などで押しながら抜き差ししてください。

配線材の線種が「より線」の場合

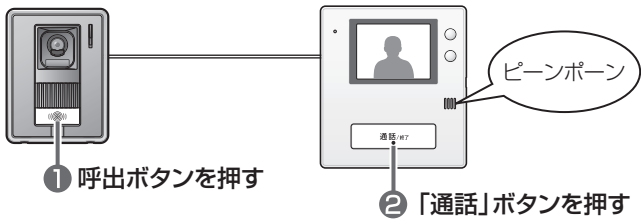
より確実に結線するため、下図の寸法の棒型圧着端子(市販品)を取り付けてから接続してください。また、隣の端子と接触(ショート)しないように、絶縁被ふく式のタイプをご使用ください。

● 市販の圧着端子の入手が困難な場合は、電気工事店にご相談ください。

4 ドアホン親機を取り付ける

3 正しく動作するか確認する

取り付け・接続後、正しく配線できているか下記の手順で動作を確認してください。

❶ ドアホンの呼出ボタンを押し、ドアホン親機で呼出音が鳴り、映像が映ることを確認する

❷ ドアホン親機の「通話」ボタンを押し、ドアホンと通話できることを確認する

● 確認が終わったら、ドアホン親機の「通話」ボタンを押す

■ドアホン親機が動作しないとき

正しく配線されていない可能性があります。
次のことを確認してください。

● ドアホン側、ドアホン親機側の端子に、それぞれ配線材が確実に接続されていますか？

● 正しく接続したのにドアホン親機が鳴らない場合、壁内での配線がおかしくなっている可能性があります。下記の手順で、確認してください。

① いったんドアホンを外してドアホン親機の近くに持っていく

② 短い配線材などを使って右図のように直接つなぐ

③ 再度、動作を確認する

➡ 正常に動作すれば、壁内の配線に問題があります。配線を確認してください。

ドアホン(背面)

ドアホン親機(背面)